

2026年2月2日 実施

杏林大学

一般 生物

解答速報

医学部専門予備校

医学部特訓塾

医特

- I ア③、④ イ① ウ② エ① オ④ カ② キ⑤ ク④ ケ② コ②
- II ア①、③、⑥、⑧ イ④ ウ① エ② オ⑤ カ③ キ⑦ ク⑦ ケ② コ⑦
サ② シ② ス① セ⑦ ソ⑦ タ⑦ チ① ツ⑤
- III ア① イ⑤ ウ③ エ⑤ オ⑥ カ③ キ① ク① ケ③
- IV ア⑤ イ⑤ ウ② エ③ オ④ カ① キ① ク③

【講評】

大問1は幅広い分野からの小問集合であった。基本的なものが多かったため素早く処理して後半の考察問題に使う時間を確保しておきたい。

大問2はオーキシンによる光屈性と重力屈性、心臓、集団遺伝（ハーディ・ワインベルグの法則）、細胞周期の計算という、全く異なる4つのテーマからなる中間集合であった。いずれも基本から標準的なレベルだが細胞周期の計算問題はやや煩雑で、図やグラフを描きながら落ち着いて処理したい。

大問3は神経の興奮伝導と筋収縮に関する問題であった。実験問題ではあったが複雑な考察を要する問題はなく、しっかりとこの分野の知識が定着していればそれほど難しくは感じなかっただろう。

大問4はニワトリの発生に関する考察を中心とした実験問題。問題文と図表の分量が多く、時間を要する。内容は標準的で落ち着いて読み解けばそれほど難しくは無いが、前半で時間を使ってしまった受験生は苦しかっただろう。

得点目標は7割5分から8割程度。基本的な問題から標準的なレベルの問題で構成されていた。計算問題や実験考察問題を落ち着いて処理できたかどうか重要になっただろう。